

4 鳥取県感染症発生動向調査情報（月報）

（鳥取県感染症対策推進協議会情報解析部会）

鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

平成31年2月14日(木)

鳥取県生活環境部衛生環境研究所

平成31年第1週から平成31年第5週までの患者報告の状況

1 報告の多い疾病(インフルエンザ定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(1週～5週) 5週 (H30.12.31～H31.2.3)	前回(48週～52週) 5週 (H30.11.26～H30.12.30)	前々回(43週～47週) 5週 (H30.10.22～H30.11.25)
1 インフルエンザ (4,596) [↑ 4,309]	1 感染性胃腸炎 (564)	1 感染性胃腸炎 (398)
2 感染性胃腸炎 (820) [↑ 256]	2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (418)	2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (378)
3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (471) [↑ 53]	3 インフルエンザ (287)	3 手足口病 (163)
4 手足口病 (45) [↓ 65]	4 手足口病 (110)	4 ヘルパンギーナ (63)
5 RSウイルス感染症 (41) [↓ 14]	5 RSウイルス感染症 (55)	5 RSウイルス感染症 (60)
5 流行性角結膜炎 (41) [↓ 5]	6 咽頭結膜熱 (49)	6 インフルエンザ (41)
7 その他 (96) [↓ 57]	7 その他 (153)	7 その他 (105)
(合計 6,110)	(合計 1,636)	(合計 1,208)

※[]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

2 前回との比較増減

全体の報告数は、6,110件であり、273%(4,474件)の増となった。

増加した疾病		減少した疾病	
インフルエンザ	1,501%	手足口病	59%
感染性胃腸炎	45%	咽頭結膜熱	45%
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	13%	RSウイルス感染症	25%
		流行性角結膜炎	11%

3 コメント

- ・インフルエンザ警報が発令されました。患者報告数は、第4週をピークに減少傾向を示していますが、引き続き県内全域で多い状況であり、注意が必要です。
- ・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎警報が発令されました。東部及び西部地区で患者報告数が多く注意が必要です。
- ・感染性胃腸炎の患者報告数が増加しています。特に中部地区は警報レベルを超えており、注意が必要です。
- ・流行性角結膜炎の患者報告数が、中部地区で引き続き多い状況であり、注意が必要です。
- ・風しんの患者報告数は全国的に引き続き多い状況です。抗体価の低い妊婦の方は、特に注意が必要です。

鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

平成31年3月12日(火)
鳥取県生活環境部衛生環境研究所

平成31年第6週から平成31年第9週までの患者報告の状況

1 報告の多い疾病(インフルエンザ定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(6週～9週)4週 (H31.2.4～H31.3.3)	前回(2週～5週)4週 (H31.1.7～H31.2.3)	前々回(50週～1週)4週 (H30.12.10～H31.1.6)
1 インフルエンザ (1,618) [↓ 2,682]	1 インフルエンザ (4,300)	1 インフルエンザ (565)
2 感染性胃腸炎 (640) [↓ 105]	2 感染性胃腸炎 (745)	2 感染性胃腸炎 (432)
3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (382) [↓ 45]	3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (427)	3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (303)
4 手足口病 (38) [↓ 4]	4 手足口病 (42)	4 手足口病 (72)
5 咽頭結膜熱 (25) [↑ 5]	5 流行性角結膜炎 (30)	5 RSウイルス感染症 (41)
6 RSウイルス感染症 (24) [↓ 5]	6 RSウイルス感染症 (29)	6 水痘 (38)
7 その他 (79) [↓ 2]	7 その他 (81)	6 流行性角結膜炎 (38)
(合計 2,806)	(合計 5,654)	8 その他 (80)
		(合計 1,569)

※[]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したものの、数値は増減の件数である。

2 前回との比較増減

全体の報告数は、2,806件であり、50%(2,848件)の減となった。

減少した疾病	
インフルエンザ	62%
流行性角結膜炎	30%
感染性胃腸炎	14%
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	11%
手足口病	10%

3 コメント

- ・インフルエンザ警報が発令中です。中部地区における患者報告数が多い状況です。
- ・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎警報が発令中です。患者報告数が引き続き多い状況であり、注意が必要です。
- ・感染性胃腸炎の患者報告数は減少傾向を示していますが、中部地区では多い状況であり、注意が必要です。
- ・流行性角結膜炎の患者報告数が、中部地区で引き続き多い状況です。
- ・風しんの患者報告数は全国的に引き続き多い状況です。抗体価の低い妊婦の方は、特に注意が必要です。

鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

平成31年4月9日(火)

鳥取県生活環境部衛生環境研究所

平成31年第10週から平成31年第13週までの患者報告の状況

1 報告の多い疾病(インフルエンザ定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(10週～13週)4週 (H31.3.4～H31.3.31)	前回(6週～9週)4週 (H31.2.4～H31.3.3)	前々回(2週～5週)4週 (H31.1.7～H31.2.3)
1 インフルエンザ (585) [↓ 1,033]	1 インフルエンザ (1,618)	1 インフルエンザ (4,300)
2 感染性胃腸炎 (494) [↓ 146]	2 感染性胃腸炎 (640)	2 感染性胃腸炎 (745)
3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (323) [↓ 59]	3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (382)	3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (427)
4 手足口病 (113) [↑ 75]	4 手足口病 (38)	4 手足口病 (42)
5 咽頭結膜熱 (37) [↑ 12]	5 咽頭結膜熱 (25)	5 流行性角結膜炎 (30)
5 水痘 (37) [↑ 15]	6 RSウイルス感染症 (24)	6 RSウイルス感染症 (29)
7 その他 (101) [↑ 22]	7 その他 (79)	7 その他 (81)
(合計 1,690)	(合計 2,806)	(合計 5,654)

※[]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

2 前回との比較増減

全体の報告数は、1,690件であり、40%(1,116件)の減となった。

増加した疾病		減少した疾病	
手足口病	197%	インフルエンザ	64%
咽頭結膜熱	48%	感染性胃腸炎	23%
		A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	15%

3 コメント

- ・インフルエンザ警報は4月3日に解除されましたが、集団発生が散発しており注意が必要です。
- ・手足口病の患者報告数が、中部及び西部地区で上昇傾向を示しています。
- ・風しんの患者報告数は全国的に引き続き多い状況です。抗体価の低い妊婦の方は、特に注意が必要です。

鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

令和元年5月14日(火)
鳥取県生活環境部衛生環境研究所

平成31年第14週から平成31年第17週までの患者報告の状況

1 報告の多い疾病(インフルエンザ定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(14週～17週)4週 (H31. 4. 1 ~ H31. 4. 28)	前回(10週～13週)4週 (H31. 3. 4 ~ H31. 3. 31)	前々回(6週～9週)4週 (H31. 2. 4 ~ H31. 3. 3)
1 感染性胃腸炎 (583) [↑ 89]	1 インフルエンザ (585)	1 インフルエンザ (1,618)
2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(357) [↑ 34]	2 感染性胃腸炎 (494)	2 感染性胃腸炎 (640)
3 インフルエンザ (332) [↓ 253]	3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(323)	3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(382)
4 手足口病 (175) [↑ 62]	4 手足口病 (113)	4 手足口病 (38)
5 RSウイルス感染症 (45) [↑ 22]	5 咽頭結膜熱 (37)	5 咽頭結膜熱 (25)
6 咽頭結膜熱 (44) [↑ 7]	5 水痘 (37)	6 RSウイルス感染症 (24)
7 その他 (92) [↓ 9]	7 その他 (101)	7 その他 (79)
(合計 1,628)	(合計 1,690)	(合計 2,806)

※[]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

2 前回との比較増減

全体の報告数は、1,628件であり、4%(62件)の減となった。

増加した疾病		減少した疾病	
手足口病	55%	インフルエンザ	43%
咽頭結膜熱	19%		
感染性胃腸炎	18%		
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	11%		

3 コメント

- ・インフルエンザの患者報告数は、流行基準の定点当たり1.0を超えており、主にAH3型が検出されています。
- ・咽頭結膜熱の患者報告数が、西部地区で増加しており、注意が必要です。
- ・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の患者報告数が、東部及び西部地区で上昇傾向を示しており、注意が必要です。
- ・感染性胃腸炎は、集団発生が頻発しており、注意が必要です。
- ・水痘は、幼児を中心に患者報告数が増加傾向を示しており、注意が必要です。
- ・手足口病の患者報告数が、中部及び西部地区で引き続き多く、注意が必要です。
- ・麻疹・風しんの県内発生事例(各1例)では2次感染の発生はありませんが、全国的に流行しており、注意が必要です。
- ・梅毒の患者報告数が、近年同様に多い傾向が見られます。

鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

令和元年6月13日(木)
鳥取県生活環境部衛生環境研究所

令和元年第18週から第22週までの患者報告の状況

1 報告の多い疾病(インフルエンザ定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(18週～22週)5週 (H31. 4. 29 ~ R1. 6. 2)	前回(13週～17週)5週 (H31. 3. 25 ~ H31. 4. 28)	前々回(8週～12週)5週 (H31. 2. 18 ~ H31. 3. 24)
1 感染性胃腸炎 (587) [↓ 94]	1 感染性胃腸炎 (681)	1 インフルエンザ (1, 115)
2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(337) [↓ 113]	2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(450)	2 感染性胃腸炎 (672)
3 手足口病 (184) [↓ 37]	3 インフルエンザ (397)	3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(417)
4 インフルエンザ (178) [↓ 219]	4 手足口病 (221)	4 手足口病 (91)
5 咽頭結膜熱 (91) [↑ 38]	5 咽頭結膜熱 (53)	5 水痘 (43)
6 水痘 (57) [↑ 26]	6 RSウイルス感染症 (52)	6 咽頭結膜熱 (42)
7 その他 (131) [↑ 18]	7 その他 (113)	7 その他 (122)
(合計 1, 565)	(合計 1, 967)	(合計 2, 502)

※[]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

2 前回との比較増減

全体の報告数は、1,565件であり、20%(402件)の減となった。

増加した疾病	減少した疾病
伝染性紅斑 182%	インフルエンザ 55%
水痘 84%	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 25%
咽頭結膜熱 72%	手足口病 17%
	感染性胃腸炎 14%

3 コメント

- ・咽頭結膜熱の患者報告数は、増加傾向を示しており、注意が必要です。
- ・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の患者報告数は、東部及び西部地区で多い状況です。
- ・水痘の患者報告数は、東部及び中部地区で多く、引き続き注意が必要です。
- ・手足口病の患者報告数は、増加傾向を示しており、注意が必要です。
- ・伝染性紅斑は、西部地区で患者報告数が増加傾向を示しています。
- ・麻疹・風しんは、全国的に流行しており、注意が必要です。
- ・梅毒の患者報告数が、近年同様に多い傾向が見られます。

鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

令和元年7月12日(金)
鳥取県生活環境部衛生環境研究所

令和元年第23週から第26週までの患者報告の状況

1 報告の多い疾病(インフルエンザ定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(23週～26週)4週 (R1. 6. 3 ~ R1. 6. 30)	前回(19週～22週)4週 (R1. 5. 6 ~ R1. 6. 2)	前々回(15週～18週)4週 (H31. 4. 8 ~ R1. 5. 5)
1 手足口病 (700) [↑ 539]	1 感染性胃腸炎 (550)	1 感染性胃腸炎 (510)
2 感染性胃腸炎 (552) [↑ 2]	2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(316)	2 インフルエンザ (320)
3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(326) [↑ 10]	3 手足口病 (161)	3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(302)
4 ヘルパンギーナ (110) [↑ 96]	4 インフルエンザ (133)	4 手足口病 (172)
5 咽頭結膜熱 (87) [↑ 3]	5 咽頭結膜熱 (84)	5 咽頭結膜熱 (46)
6 伝染性紅斑 (61) [↑ 35]	6 水痘 (55)	6 RSウイルス感染症 (43)
7 その他 (104) [↓ 8]	7 その他 (112)	7 その他 (86)
(合計 1,940)	(合計 1,411)	(合計 1,479)

※[]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

2 前回との比較増減

全体の報告数は、1,940件であり、37%(529件)の増となった。

増加した疾病		減少した疾病	
ヘルパンギーナ	686%	インフルエンザ	99%
手足口病	335%	水痘	55%
伝染性紅斑	135%		
咽頭結膜熱	4%		
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3%		

3 コメント

- ・手足口病警報が発令中です。患者報告数は、全県で増加しており、注意が必要です。
- ・伝染性紅斑については、東部及び西部地区で患者報告数が多い状況です。なお、7月10日に伝染性紅斑警報が発令されました。
- ・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の患者報告数は、引き続き多い状況です。
- ・ヘルパンギーナの患者報告数が、全県で増加しています。
- ・麻しん・風しんは、全国的に患者報告数が減少傾向を示していますが、引き続き注意が必要です。
- ・梅毒の患者報告数が、近年同様に多い傾向が見られます。

鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

令和元年8月20日(火)
鳥取県生活環境部衛生環境研究所

令和元年第27週から第30週までの患者報告の状況

1 報告の多い疾病(インフルエンザ定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(27週～30週)4週 (R1.7.1～R1.7.28)	前回(23週～26週)4週 (R1.6.3～R1.6.30)	前々回(19週～22週)4週 (R1.5.6～R1.6.2)
1 手足口病 (1,027) [↑ 327]	1 手足口病 (700)	1 感染性胃腸炎 (550)
2 感染性胃腸炎 (307) [↓ 245]	2 感染性胃腸炎 (552)	2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (316)
3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(229) [↓ 97]	3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (326)	3 手足口病 (161)
4 ヘルパンギーナ (174) [↑ 64]	4 ヘルパンギーナ (110)	4 インフルエンザ (133)
5 伝染性紅斑 (81) [↑ 20]	5 咽頭結膜熱 (87)	5 咽頭結膜熱 (84)
6 咽頭結膜熱 (79) [↓ 8]	6 伝染性紅斑 (61)	6 水痘 (55)
7 その他 (92) [↓ 12]	7 その他 (104)	7 その他 (112)
(合計 1,989)	(合計 1,940)	(合計 1,411)

※[]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

2 前回との比較増減

全体の報告数は、1,989件であり、3%(49件)の増となった。

増加した疾病		減少した疾病	
RSウイルス感染症	108%	感染性胃腸炎	44%
ヘルパンギーナ	58%	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	30%
手足口病	47%	咽頭結膜熱	9%
伝染性紅斑	33%		

3 コメント

- ・手足口病警報が発令中です。患者報告数はピークを越えましたが、引き続き注意が必要です。
- ・伝染性紅斑の患者報告数は、減少傾向を示しています。なお、8月13日に伝染性紅斑警報は解除されました。
- ・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の患者報告数は、引き続き多い状況です。
- ・RSウイルス感染症の患者報告数が、西部地区で増加しています。
- ・風しんは、全国的に患者報告数が減少傾向を示していますが、引き続き注意が必要です。

鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

令和元年9月13日(金)

鳥取県生活環境部衛生環境研究所

令和元年第31週から第35週までの患者報告の状況

1 報告の多い疾病(インフルエンザ定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(31週～35週)5週 (R1.7.29～R1.9.1)	前回(26週～30週)5週 (R1.6.24～R1.7.28)	前々回(21週～25週)5週 (R1.5.20～R1.6.23)
1 手足口病 (398) [↓900]	1 手足口病 (1,298)	1 感染性胃腸炎 (751)
2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (273) [↓23]	2 感染性胃腸炎 (409)	2 手足口病 (546)
3 感染性胃腸炎 (241) [↓168]	3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (296)	3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (427)
4 RSウイルス感染症(139) [↑113]	4 ヘルパンギーナ (213)	4 咽頭結膜熱 (119)
5 ヘルパンギーナ (99) [↓114]	5 伝染性紅斑 (103)	5 ヘルパンギーナ (83)
6 咽頭結膜熱 (59) [↓35]	6 咽頭結膜熱 (94)	6 インフルエンザ (52)
7 その他 (142) [↑34]	7 その他 (108)	6 伝染性紅斑 (52)
(合計 1,351)	(合計 2,521)	8 その他 (145)
		(合計 2,175)

※[]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

2 前回との比較増減

全体の報告数は、1,351件であり、46%(1,170件)の減となった。

増加した疾病		減少した疾病	
RSウイルス感染症	435%	手足口病	69%
		ヘルパンギーナ	54%
		伝染性紅斑	46%
		感染性胃腸炎	41%
		咽頭結膜熱	37%
		A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8%

3 コメント

- ・手足口病警報が発令中です。患者報告数はピークを越えましたが、引き続き注意が必要です。
- ・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の患者報告数は、引き続き多い状況です。
- ・RSウイルス感染症の患者報告数は、全域で増加しており、注意が必要です。
- ・伝染性紅斑の患者報告数は、東部及び西部地区で引き続き多い状況です。
- ・風しんは、全国的に患者報告数が減少傾向を示しています。

鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

令和元年10月18日(金)

鳥取県生活環境部衛生環境研究所

令和元年第36週から第39週までの患者報告の状況

1 報告の多い疾病(インフルエンザ定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(36週～39週)4週 (R1.9.2～R1.9.29)	前回(32週～35週)4週 (R1.8.5～R1.9.1)	前々回(28週～31週)4週 (R1.7.8～R1.8.4)
1 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (275) [↑ 60]	1 手足口病 (235)	1 手足口病 (882)
2 RSウイルス感染症 (239) [↑ 132]	2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (215)	2 感染性胃腸炎 (268)
3 感染性胃腸炎 (211) [↑ 21]	3 感染性胃腸炎 (190)	3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (221)
4 手足口病 (135) [↓ 100]	4 RSウイルス感染症 (107)	4 ヘルパンギーナ (166)
5 咽頭結膜熱 (66) [↑ 18]	5 ヘルパンギーナ (64)	5 咽頭結膜熱 (72)
6 伝染性紅斑 (56) [↑ 10]	6 咽頭結膜熱 (48)	6 伝染性紅斑 (63)
7 その他 (152) [↑ 35]	7 その他 (117)	7 その他 (119)
(合計 1,134)	(合計 976)	(合計 1,791)

※[]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

2 前回との比較増減

全体の報告数は、1,134件であり、16%(158件)の増となった。

増加した疾病		減少した疾病	
インフルエンザ	725%	手足口病	43%
RSウイルス感染症	123%	ヘルパンギーナ	34%
咽頭結膜熱	38%		
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	28%		
伝染性紅斑	22%		
感染性胃腸炎	11%		

3 コメント

- ・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の患者報告数は、東部及び西部地区で多く、注意が必要です。
- ・RSウイルス感染症の患者報告数は、引き続き多い状況であり、注意が必要です。
- ・伝染性紅斑の患者報告数は、東部及び西部地区で引き続き多い状況です。
- ・咽頭結膜熱は、西部地区で患者報告数が多い状況です。
- ・梅毒の患者報告数が近年同様に多い傾向が見られます。
- ・麻しんは、首都圏域で継続して患者が発生しています。
- ・風しんは、全国的に患者報告数が減少傾向を示しています。

鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

令和元年11月15日(金)

鳥取県生活環境部衛生環境研究所

令和元年第40週から第44週までの患者報告の状況

1 報告の多い疾病(インフルエンザ定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(40週～44週)5週 (R1.9.30～R1.11.3)	前回(35週～39週)5週 (R1.8.26～R1.9.29)	前々回(30週～34週)5週 (R1.7.22～R1.8.25)
1 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (354) [↑32]	1 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (322)	1 手足口病 (531)
2 感染性胃腸炎 (327) [↑70]	2 RSウイルス感染症 (286)	2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (282)
3 RSウイルス感染症 (226) [↓60]	3 感染性胃腸炎 (257)	3 感染性胃腸炎 (259)
4 咽頭結膜熱 (102) [↑20]	4 手足口病 (181)	4 ヘルパンギーナ (125)
5 ヘルパンギーナ (49) [↓2]	5 咽頭結膜熱 (82)	5 RSウイルス感染症 (112)
6 手足口病 (44) [↓137]	6 伝染性紅斑 (73)	6 咽頭結膜熱 (54)
7 その他 (146) [↓35]	7 その他 (181)	7 その他 (135)
(合計 1,248)	(合計 1,382)	(合計 1,498)

※[]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

2 前回との比較増減

全体の報告数は、1,248件であり、10%(134件)の減となった。

増加した疾病		減少した疾病	
感染性胃腸炎	27%	手足口病	76%
咽頭結膜熱	24%	インフルエンザ	47%
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	10%	伝染性紅斑	44%
		RSウイルス感染症	21%
		ヘルパンギーナ	4%

3 コメント

- ・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の患者報告数は、全県で多い状況であり、注意が必要です。
- ・RSウイルス感染症の患者報告数は、引き続き多い状況であり、注意が必要です。
- ・咽頭結膜熱は、中部及び西部地区で患者報告数が多い状況です。
- ・梅毒の患者報告数は、近年同様に多い状況です。
- ・風しんは、全国的に患者報告数が減少傾向を示しています。
- ・百日咳の患者報告数が多く、注意が必要です。

鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

令和元年12月10日(火)

鳥取県生活環境部衛生環境研究所

令和元年第45週から第48週までの患者報告の状況

1 報告の多い疾病(インフルエンザ定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(45週～48週)4週 (R1.11.4～R1.12.1)	前回(41週～44週)4週 (R1.10.7～R1.11.3)	前々回(37週～40週)4週 (R1.9.9～R1.10.6)
1 感染性胃腸炎 (447) [↑172]	1 感染性胃腸炎 (275)	1 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (283)
2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(299) [↑27]	2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (272)	2 RSウイルス感染症 (263)
3 咽頭結膜熱 (83) [↑6]	3 RSウイルス感染症 (160)	3 感染性胃腸炎 (206)
4 RSウイルス感染症 (63) [↓97]	4 咽頭結膜熱 (77)	4 手足口病 (96)
5 インフルエンザ (57) [↑44]	5 ヘルパンギーナ (39)	5 咽頭結膜熱 (77)
6 伝染性紅斑 (55) [↑27]	6 手足口病 (32)	6 伝染性紅斑 (51)
7 その他 (107) [↓7]	7 その他 (114)	7 その他 (132)
(合計 1,111)	(合計 969)	(合計 1,108)

※[]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

2 前回との比較増減

全体の報告数は、1,111件であり、15%(142件)の増となった。

増加した疾病		減少した疾病	
インフルエンザ	338%	RSウイルス感染症	61%
水痘	162%	ヘルパンギーナ	49%
伝染性紅斑	96%		
感染性胃腸炎	63%		
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	10%		
咽頭結膜熱	8%		

3 コメント

- ・インフルエンザの患者報告数が増加傾向を示しています。なお、12月に入り、県内は流行期になり、注意が必要です。
- ・水痘注意報を発令中です。東部及び西部地区で患者報告数が多く、注意が必要です。
- ・伝染性紅斑は、中部及び西部地区で特に患者報告数が多く、警報レベルに達したため、12月4日に伝染性紅斑警報が発令されました。
- ・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の患者報告数は、全県で多い状況であり、注意が必要です。
- ・咽頭結膜熱は、中部及び西部地区で患者報告数が多い状況です。
- ・感染性胃腸炎の患者報告数が、増加傾向を示しています。
- ・梅毒の患者報告数は、近年同様に多い状況です。
- ・百日咳の患者報告数が多く、注意が必要です。

鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

令和2年1月17日(金)
鳥取県生活環境部衛生環境研究所

令和元年第49週から第52週までの患者報告の状況

1 報告の多い疾病(インフルエンザ定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(49週～52週)4週 (R1.12.2～R1.12.29)	前回(45週～48週)4週 (R1.11.4～R1.12.1)	前々回(41週～44週)4週 (R1.10.7～R1.11.3)
1 インフルエンザ(1,653) [↑1,596]	1 感染性胃腸炎 (447)	1 感染性胃腸炎 (275)
2 感染性胃腸炎 (561) [↑114]	2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (299)	2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (272)
3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(518) [↑219]	3 咽頭結膜熱 (83)	3 RSウイルス感染症 (160)
4 咽頭結膜熱 (153) [↑70]	4 RSウイルス感染症 (63)	4 咽頭結膜熱 (77)
5 伝染性紅斑 (94) [↑39]	5 インフルエンザ (57)	5 ヘルパンギーナ (39)
6 水痘 (56) [↑22]	6 伝染性紅斑 (55)	6 手足口病 (32)
7 その他 (117) [↑10]	7 その他 (107)	7 その他 (114)
(合計 3,152)	(合計 1,111)	(合計 969)

※[]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

2 前回との比較増減

全体の報告数は、3,152件であり、184%(2,041件)の増となった。

増加した疾病		減少した疾病	
インフルエンザ	2,800%	RSウイルス感染症	65%
咽頭結膜熱	84%		
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	73%		
伝染性紅斑	71%		
水痘	65%		
感染性胃腸炎	26%		

3 コメント

- ・インフルエンザ警報が発令されました。患者報告数は引き続き多い状況であり、注意が必要です。
- ・咽頭結膜熱警報が発令中です。特に、中部及び西部地区で患者報告数が多く、注意が必要です。
- ・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎警報が発令中です。患者報告数が全県で多い状況であり、注意が必要です。
- ・伝染性紅斑警報が発令中です。引き続き注意が必要です。
- ・水痘注意報が発令中です。引き続き注意が必要です。
- ・感染性胃腸炎の患者報告数は、引き続き増加傾向を示しており、注意が必要です。
- ・梅毒の患者報告数は、昨年同様に多い状況であり、注意が必要です。
- ・百日咳の患者が継続して報告されており、注意が必要です。